

Sencia

[センシア]

ソフトパワーで
大阪のさらなる未来を輝かせよう

2017.01

2017年 新年のご挨拶 岡部倫典

年頭メッセージ 更家悠介

大阪市長

一般社団法人大阪青年会議所 理事長

新年対談[吉村洋文×岡部倫典]

「ザ・元気人インタビュー」 川口盛之助
特集『温故知新 大大阪時代を歩く』 ダイビル本館
「探訪・浪速の名匠」 をぐら屋 大阪戎橋筋

写真：ダイビル本館

自分にプラスな体験

夢? 本気で世界平和
四宮 圭
2015年度入会 / chou chou 代表

自己成長 友情 社会貢献

若者を投票へ!
松下 兼久
2012年度入会 / 松下シティアス株式会社
代表取締役社長

日本中、世界中に
繋がりが!
尾崎 誠人
2016年度入会 / 株式会社特水 取締役営業部長

ちびっこの
夢を乗せて
合田 昌史
2015年度入会 / 株式会社まいるい 港運部課長

自分
プラス
OSAKA

2017年度 新入会員募集中

私たちと大阪を発展させませんか?

詳しくはWEBで

大阪青年会議所 入会

検索



Junior Chamber International Osaka
一般社団法人 大阪青年会議所

二〇一七年 新年のご挨拶



2017年度一般社団法人大阪青年会議所の理事長を務めます岡部倫典でございます。

平素より皆様方におかれましては、一般社団法人大阪青年会議所の活動に對しまして並々ならぬご支援、ご協力を賜っておりますこと厚く御礼申し上げます。

大阪青年会議所は1950年（昭和25年）戦後の荒廃の中、「青年」それはあらゆる価値の根源である」との志の下、国家の再建と世界平和の実現に向けて日本で2番目に設立された青年会議所です。

ITの普及と発展は私たちに驚異的な利便性をもたらしました。私たちはその利便性に夢中になり、ITをひとつのツールとして活用するべき人としての立ち位置を見失い、いつしか進歩のスピードに追いつけなくなりつつあります。インターネットの本格的普及からおよそ15年ツールとしてのITが私たちの生活に完全に定着した今こそ、無限の価値を生み出す人の力の偉大さを、一度見つめ直さなければなりません。

いかにITやAIが進歩しようとも、未来に想いを馳せ志へと変えて未来を創り出すのは、人の力であるソフトウェアに他なりません。人口構造の変化と人口減少が加速的に迫りくるわが国日本、そしてグローバル化の中で頻発するテロや世界経済のボラリティ化、これらを乗り越えて次代に未来を贈り継いでいくために、私たち大阪青年会議所は一人ひとりの志あるソフトウェアを余すことなく束ね、その力強さを広く発信して、明るい豊かな社会の創造の助と

なれますよう邁進して参ります。

2017年度、「創力」あふれるまち大阪の実現」をテーマに掲げ、まちの未来を思い描いて無限の価値を生み出す変革に挑戦し続け、人の力の偉大さを尊び、その秘めたエネルギーの大きさを伝え、育み、融合させて、輝ける未来への力に進化させ、さらにその先の未来を切り拓く力を創り出すために全力で取り組んで参ります。

本年も、夢の実現に向けた強い意志と勇気ある行動力を備えた次代の人財や、世界をステージと捉えて活躍するリーダーシップあふれる人財を育成する事業など、人財育成に注力したプログラムを実施して参ります。

私たちは900余名の現役会員と、卒業生である約2600名の名譽会員、特別会員が全員一丸となつて大阪のまちの為に行動して参ります。

結びに多くの市民の皆様、行政、企業、各種団体の皆様様の変わらぬ理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

2017年が皆様にとりまして素晴らしい年となることを御祈念申し上げます。ご挨拶とさせて頂きます。2017年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

一般社団法人 大阪青年会議所
理事長 岡部 倫典

<年頭メッセージ> 青年の力で、壁をぶち壊せ!

2017年が、いよいよ始まりました。大阪青年会議所のOBを代表して、本年の運動が、岡部理事長のリーダーシップとメンバーの大活躍で、素晴らしい成果が上がるように、心よりご祈念申し上げます。

さて昨年は、長い選挙戦の末、トランプ氏がアメリカの大統領に選ばれました。トランプ氏は、「メキシコとアメリカの国境に、大きな壁をつくる」と言って選挙戦を戦いました。そこで、本年1月の大統領就任以降、アメリカが国の壁を高くして、保護貿易的な政策に陥らないのか、大いに懸念されます。EUでは、イギリスが昨年の国民投票でEUを離脱し、これでドーバー海峡にも壁ができそうです。また本年3月のオランダの選挙やそれに続く選挙でも、もしそれぞれ保護主義的な政策が支持されると、EU本体のまとまりや理想が揺らぎ始めます。アジアにおいても、南シナ海や尖閣諸島の壁は、なかなか解消しそうにありません。もし、各国が自己の利権のみを主張し、自由な貿易やビジネスが阻害されれば、日本にとっては大きなマイナスになります。更にいったん国と国の諍いが起これば、それぞれの国民が熱狂的になりすぎ、角突き合わせて、戦争にさえ陥る懸念があります。このようなことは断じて避けねばなりません。

今世界では、地球温暖化(COP21)や、生物多様性の減少(COP13)などが、進行し、われわれの生活や産業の基盤となる自然が崩れつつあります。大阪青年会議所では、過去からのリベラルな活動で、世界の壁を低くし、お互いの偏見や差別を無くし、このような地球的価値と保全を世界の人々と共有し、その改善に向かって協働することを続けてきました。ことにこれからの時代は、ネットワークやプラットフォームなどの新しい技術や、青年会議所らしい行動力で、志を同じくする人々のネットワークを作り、本年も更に運動を広げていきたいと思います。また今年から大阪では、万博やMICE・IR(統合型リゾート)などの誘致運動がいよいよ実行に移されます。新しいネットワークとおもてなしの心で、心や地域に壁をつくらず、たくさんのお客様に大阪に来ていただきたいような街づくりが必要です。頑張りましょう。

「青年の力で、壁をぶち壊せ!」、本年度の活躍を、心からご祈念申し上げます。

大阪JCセネター会会長
サラヤ株式会社 代表取締役社長
更家 悠介



一般社団法人大阪青年会議所
岡部 倫典



大阪市長
吉村 洋文



理事長 今日は貴重なお時間を頂きありがとうございます。早速ですが、大阪青年会議所としては大阪のまちを元気にしていくために様々なボランティアや下支えの活動をさせて頂いていますが、2017年は改めて行政とタッグを組んで進めていくかと考えております。

大きくは「人作り」を始め、子供の教育格差という「貧困」にスポーツをあて、ついで多く貢献できる運動を実行していく考えです。さらに今年はビジネスに繋がる何かを構築し、例年と違うスタンズで活動を広げたいと思っておりますが、ここからは昨今の大阪について市長の「意見をお聞かせ頂ければ幸いです。

まずは、大阪のまちの現状「ボジショニング」についての市長のお考えや見解をお聞かせください。

市長 今大阪市は、非常に大事な分岐点に立たされていると感じています。戦前までの東京・大阪の二極から、戦後の東京一極集中へと進んだ結果、大阪で育った大きな企業がどんどん東京へ流れて行き、大阪の衰退が進みました。そこで大阪市としてもどうすれば大阪を復興させる事ができるかと考え、様々な策を打っているわけです。

またその一方で、大阪の大阪らしい魅力がアジアの中でも再注目されて来ているにも関わらず、まだまだ大阪の本来持っている力が発揮されていないのが今の現状です。今こどもも一度本来の力を取り戻す事ができれば、大阪が自立し成長していくスタイルを確立していけると確信しています。

理事長 それでは、I・Rの件や京都での文化庁の移転や民泊の条例が可決されている中、これからの展望を含め大阪の近未来についてはお考えでしょうか。



市長 まずは2025年の万博。これを大阪で行う。これは大阪の魅力を世界に発信する大きな起爆剤になると確信しています。

そして総合型リゾートI・R。大阪の夢洲にある甲子園球場100個分という広大な土地に、世界にもここが無いというようなI・Rを作ることにより、雇用創出、税収増、地域の産業活性化など、大阪の経済発展が実現するはずで。きとこの頃には湾岸エリアの景色が大きく変わっていくでしょう。

またその同時期に淀川左岸線という大阪湾岸エリアから梅北そして、門真から京都へ繋がる高快速道路が整備拡大されれば、渋滞緩和と経済循環が高まるだろうと期待しています。大阪が大きく活性化していくチャンスです。

理事長 そうすると、今後のインバウンドにおいても様々な期待がでると思うのですが、本来の大阪の魅力についてはどうお考えですか？

すが、改めて「ソフトパワー」と言うべく「人の力」という資産を活かしたいと考えております。市長も同じ様に「人の教育に力を入れる」と指針を出されていたかと思いますがそのあたりもお聞かせください。

市長 これから誰もが経験しなごのない少子高齢化となるでしょう。そんな中でどうやってこの国や大阪を豊かにしていくかと考えた時にはやはり「人の力」が「まらの力」になると思っています。

国の経済を構築するのは、労働力と資本力と生産性、この中で労働力は減る方でしょう。しかし将来、成長した子供はいずれ国の消費者となり、納税者、生産者となりますから、子供たちの未来のために必要な政策を実行していきたい。それが僕の方針です。

たことは幼児教育の無償化をはじめ、所得格差が教育格差にならないよう、能力のある努力する子供はどんどん押し上げて行きたい。他の都市では見ないような子供の貧困対策をやっています。そうすることで循環型の社会を実現させ、子供が自分の可能性を追求していける強い社会を作っていけるのです。

理事長 私が教育に関してもう注目したいのがスポーツなんです。たとえば、子供のオリンピックがあつても良いのかなと思ったり。心身を鍛えるという意味では学力だけではなく、精神性や礼節などスポーツを通して子供が学ぶものは非常に大きい。この点で市長のお考えをお聞かせ頂けませんか。



た、第3線の選手とふれあつてスポーツの素晴らしさを子供達に知ってもらうなど、スポーツを通じて教育を進めています。さらにパラリンピック「ボッチャ」のナショナルセンターも舞洲に拠点を置く運びとなりました。スポーツの素晴らしさを大阪全域に広げたいこうと思っています。

理事長 最後に、改めて私たち大阪青年会議所25才から40才までの青年経済人に対して期待されることをお聞かせください。

市長 まず、僕は41歳で大阪市長としては若いねと言われますが、世界の首脳G7の7人の内3人が40代なんです。むしろ決して若くないという思いで立ち向かわなければいけないと思っていますし、逆に40代が中心になって日本の政治経済を担っていくわけがないと感じています。さらに2020・30代が経済を引っ張らない大阪は良くならないですよとJ・Cの皆さんに言いたい！

イギリスのEU離脱、アメリカではトランプ氏が大統領に選ばれた今、この国においても、異もの化していくでしょう。どの国においても、異もの化していく事はやめて、社会の問題、課題を正面から捉えて突破して行こうという動きが求められているんだろなと思います。

大阪に置き換えれば、大阪府と大阪市を合わせて不幸せ、府市合わせとも言われる「重行政が続いていたこと。例えば、橋下前市長は知事とされてしまったね。では、橋下市長と橋下知事のどちらがトランプですか？と聞かれて困るようなもので。今、この私と松井知事は同じ価値観を持ちながら大阪の成長戦略を体で進めています。これが一つでも行き違ってしまったら、あつと言期間に行政がストップしてしまいます。これが大阪にとつての本質的な問題。それを解決するために強力な自治体をつくり大阪府と大阪市をつなげて強力な自治体を作っていくことが我々に課せられた使命じゃないかなと考えています。この点においてもJ・Cの若くたくましい経済人の皆様に「理解と協力をお願いしたい」と言ってますね。

理事長 それに関しては、都構想の住民投票を経験して改めて興味を持った若者が多かったのではないかと感じています。自分たちの住み暮らす大阪のために、何か考えて動かないといけないんじゃないかと思う人が確実に増えていると思います。私達も微力ながらも色々な活動を通じて発信し続けていきたいと思っています。本日は本当にありがとうございました。



理事長 私が掲げる一年間の方針の中にもあります。

市長 僕は大阪が持つポテンシャルに注目しているんです。都は古くから関西にあり、その深い歴史が魅力なのは当然ながら、大阪から時間もからないうアキセで京都や奈良の歴史遺産や神戸の街並がある。これは世界中でも関西にしかない特色で、海外の方はその魅力を敏感に捉えて大阪を訪問されているのではないのでしょうか。今年、インバウンドの人々が大阪を訪れる数はおそらく1000万人に届くでしょう。そのために必要不可欠な交通網においては、24時間稼働する関西空港にJ・Cを取り入れたことにより受け入れ体制を充実させました。それに加え、関空からなんば、梅北、新大阪まで直通で行ける路線を計画して利便性の向上を図ります。

また大阪独自の魅力を再認識する事も大切です。大阪人の中にあるサービス精神や、ちよとお節介にも思えるおもてなしの心、そういうのが海外の方に受け入れられているという事実。例えば、海外の方に「大阪観光でどんなことが一番感動しましたか？」とアンケートを取りましたところ「大阪の法被が着れた事だとか、綺麗な折鶴を貰った事だ」といいます。これを見ても、日本にしかない魅力を形成し海外に発信できるポテンシャルが高いのは、大阪関西だろうと思います。

市長 僕自身も剣道やラグビーなどのスポーツを経験して、その大切さを身に染みて感じました。だから教育で最も重要なのは「生き抜く

日本は大阪人がそうでない人か……で、できている。
世界標準な大阪人の魅力を最大限に活かして、
大阪をアジアへのゲートウェイに！

(株)盛之助代表取締役社長
日経B/P未来研究所アドバイザー
川口盛之助氏

morinoske.com



大阪の感覚は
「世界各国のセンスに近い」。

神

戸出身で18歳から東京に拠点を移した川口氏の目から見て、東京は首都であり、もちろん日本の中心でありながら、文字通り「東の中心地」であるのに対し、大阪が関西の中心なのかというと少し違うという。「大阪は……雰囲気としてはアジアだよ。いいとか、悪いとかではなく、

大阪人が
「まず疑ってかかる」のは
個が確立しているからこそ。

また、大阪人の距離感も大きな武器だと、自らの過去の体験を語ってくれた。同じ会社の人と打合せの日時を決めるシーンで、川口氏が「いや、水曜日はちよつと……」と言うと、相手の方が手帳を覗き込んで「あ、ここ、木曜あいてますやん」と当然のように言ったことにショックを受けた。「ええ、人の手帳、見るなや！」と思いつつも、これがなんとなく許されてしまうのは「大阪弁」のなせる技だと感じた。話す。自然体で、流されずに自分の意見を言えることは、大きな切り札である。

大阪人は、ややもすると、エグい、空気を読まない、と思われる面が多々ある。事ほど左様に、日本で美德と言われるものは、たいがい、「大阪的」ではないものだったりする。この「大阪人は違っているよね」という事実を良いことと捉えるのか、悪いことと捉えるのか、という場面においては、もしマイナスに捉えたら、ただ「イタイ」だけ。今あるリソースの価値を最大化するのが大人の役目なので、当然良いことと捉えるべき、という川口氏。

メディアリテラシーにおいて「お上」にとても弱く報道でも何でも信じてしまう人が

多い日本において、大阪人のまず疑ってかかる、そう簡単にはお金払わない、というあり方が、「狡い」のではなく、確立している個々の価値判断や基準の上に立っているのだから、とても希望が持てると力説する。

大阪が目指すべき未来は、
アジアと世界に開けた都市。

東京は都市の規模的に極めて珍しい「スラムがほばない都市」であるが、大阪は、世界の各都市と同じく、日本の中では少なからず移民や貧困の問題も抱えている都市である。つまり、大阪は世界の都市と同じ悩みを持っている。そのような負の面も含め、グローバルな都市であると言えると、川口氏は捉えている。

「東京みたいなものを目指すのは、やっぱりナンセンス」と言い切る川口氏。同じ、沈みゆく船に乗っている東京に対抗しても始まらない。今、圧倒的に伸びているのは「アジア」なので、大阪は東京に対抗するのではなく、アジアに対してどれだけゲートウェイになれるのか、にかかっているという。

冷静に見て大阪の価値を外の人がどう見ているのか、ということに着目しなくてはならない。たとえば、PPAP(1)が今、世界で受けている。年配の人をはじめ「これが日本なんだと思われたくない」と感じている人は少なからずいるだろう。しかし、古い世

レアであることはひとつの価値だと思う。そして、大阪は日本の他のどの都市とも違うんだよ。東京をはじめとして、世界的にイメージされる「日本らしさ」は、「目立たないようにして、愚直に仕事します」というような、マジメ攻めだが、大阪には「笑かしてナンボ」という文化があり、それは、世界各国のセンスに近いと感じていると川口氏は言う。

例として、川口氏は以前にたまたま観たテレビ番組の内容を挙げた。日本から、いかついおっさんや、ガングロギャルなど、「見強そう」な人々を海外に連れていく。そして、それぞれレストランで注文をするのだが、そこで注文とは違う商品が次々出てくるという仕掛けだった。見た目に強そうでも、ほとんどの日本人が「ここでクレームしたらまた時間もかかって一緒にいる人に迷惑がかかるだろう」などと配慮して、空気を読んで「まあいいか……」という対応になってしまふ中で、唯「グローバルスタンダードな振る舞いができた、つまり「これ、ちゃんやん！」「これ頼んだヤツより高いやん！」と言えたのが、大阪のおばちゃんだったという。この「負けな感覚」は大阪ならではのパワーであると。

代も含め誰もがなんとなくいいと感じているものが受けるようでは、何も変わっていないということ。それでは終わっている。成熟した社会になってきてやつと生まれ出た「花」は咲かせなくてはならない。サブカルチャーというのは、そういうものだと思える。

大阪がいかにプレシヤスなのか、そしてそれを天然記念物にしてしまわないためには、その価値を最大化しなくてはならない。そのロジックを理解しないと未来は見えてこない。バブルが弾けた後に生まれ、将来への希望があまり持てない若い世代には厳しいところもあるかもしれないが、まだ栄えていた時代を知っている40代くらいには、わかると思うので、ぜひ若者も巻き込んで世界へ開かれた都市、大阪として踏ん張ってほしい。川口氏の大阪人へのエールには熱い説得力がこもっていた。



※(1)「PPAP」Youtubeの動画再生で驚異的なヒットを記録し、「Billboard Hot 100」にランクインした最も短い曲」としてギネス世界新記録を達成した、お笑い芸人ピコ太郎の音楽動画。



地上22階のダイビル本館。下層階は大正時代に建設されたダイビルを復元し、その上にガラスカーテンウォールを採用した高層部を組み合わせた。



温故知新

大正時代を歩く

1920年代、
大阪は東洋一の「モダンシティ」だった。

ダイビル本館。エントランスの2階吹抜。



(右) 天井を彩るレリーフは、旧ビルの現物から型を取ってつくりました。
(左) 旧ダイビル本館時代から使われている金属製の郵便受け。今も集荷が行われている現役だ。

古代エジプト時代から中世ルネサンス期までに「幾多の天才技術者に依り洗練された建築のスタイルと云うものが、一朝一夕にして破壊せられるものではないと思ふ」と1927年に語った

の鈴木祐大さん。

多くの「日本初」を生み、発展に貢献

建築様式に見られる進取の気性は、大阪初の耐震構造ビルであること、大阪ビルディングが貸しビル業の先駆者であったことも現れている。また、施工においては、原材料を施主が調達し、施工者には手間賃だけを支払うという、合理的で経済的な米国方式を採用し、これによって建築費の大幅削減に成功したが、これは商都大阪らしい発想だ。さらに可能な限り国産材を使い、それまで輸入していたテラコッタの製造を国内業者に委託し、産業の底上げにも貢献した。

初の試みを多く取り入れ、時代の先端

異彩を放った、西日本最大のオフィスビル

そんな時代を背景に誕生した旧ダイビル本館は、大阪商船(現・商船三井)と関西電力の前身である宇治川電気、日本電力の三社共同出資で設立した大阪ビルディング(現・ダイビル株式会社)によって建てられた。当時、このビルは西日本で最大級の規模を誇り、大きな話題を呼んだ。「この頃は東京丸の内ビルディングのように近代式のオフィスビルが主流でしたが、設計監督の渡邊節は、伝統のネオロマネスク様式を取り入れ、各所に彫塑像を施すことを提案し、実現しました。当時は、重厚な装飾も話題になったようです」と広報室の鈴木祐大さん。



堂島川対岸北西より臨むダイビル本館。左は中之島ダイビル、右は関西電力本社ビル。

1920年代、大阪が日本の経済・文化の中心として栄華を極めた時代があった。この頃、大阪市は東京市(現・東京23区)をしのぐ発展を遂げ、アジア最大の工業都市として「東洋のマンチエスター」とすら呼ばれるに至った。そして、この時代「大正時代」という名称が生まれる。この特集では当時を振り返り、現代に受け継がれる大阪の創造性や活力に迫る。第二回は「大正時代の建築の象徴、旧ダイビル本館(完成当初の名称は大阪ビルディング)を復元したダイビル本館を訪ねた。

シガの壁にギリシャ風の彫刻を施したクラシックな造り。中央玄関の上には、帝展審査員を務めた大岡貞蔵作の「鷲と少女の像」が飾られている。ビルの前を歩くと、まるで歴史あるヨーロッパの町にいるような気分になれる。が、目線を上げれば、その重厚なビルの上にガラス張りの近未来的なビルがそびえ立つ。その現代アートのようなコントラストが面白い。

2013年に完成した地上22階のダイビル本館は、6階までの下層階にレトロな佇まいのビルが復元されている。このビルこそ、大正時代のシンボル、旧ダイビル本館だ。この建物が完成したのは1925年のこと。大阪の経済・文化が活気にあふれ、「大正時代」と呼ばれていた時代である。この頃、大阪は「天下の台所」として築いて来た豊かな経済基盤のもと、地下鉄御堂筋線の建設、大阪城天守閣の再建、御堂筋の大規模な拡張を進め、近代的な町へと発展。多くの若者は、上京ならぬ「上阪」を夢見たという。

1923年に発生した関東大震災も大きな後押しとなった。被災者の一部が大阪市に転居したことで人口は日本最多の211万人に膨れ上がり、東京市の混乱により、臨時首都の役割も担うことになったのである。



北西角より見上げるダイビル本館。

を走った旧ダイビル本館には、大阪の大企業や銀行のほかイギリスやドイツなどの領事館も置かれ、開館当初から国際色豊かなビルとして高く評価された。最上階に社交クラブ「大ビル倶楽部」を設立したのも、同館の面白いところ。当時は、関西のみならず日本の財界の要人らもここに集い、政治経済の問題について議論したという。旧ダイビル本館はオフィスビルに留まらず、政財界に社交の場も提供していたのである。

白黒写真と現物から、竣工当時の姿を復元

建築業界に新たな風を吹き込んだ旧ダイビル本館。その建物を復元した理由を、建て替えたに携わった広報室の林幸司さんは「当社の創業の地であるこのビルには強い思い入れがありましたし、中之島の歴史を建物を通して次世代に伝えたいという思いもありました」と話す。復元にあたっては、「可能な限り建築資材を再利用する」という方針を貫いた。外壁のレンガは現代の建築基準に合うかどうか調査した上で、二つずつ取り外して洗浄し再利用したレンガの数は約15万個。気の遠くなるような作業だった。さらに足りないレンガは、何度も焼き



広報室の鈴木さん(左)と林さん(右)

直して当時の風合いに近づけた。石柱も部分的に作り直し、エイジング加工を施したが、違和感のないよう再現するのには苦労したという。もちろん、本館のシンボル「鷺と少女の像」も再利用した。

内装も竣工時の姿に戻すために、手すりや金属製の郵便受けはそのまま使い、天井は現物を型取りして再現。その他の部分は、白黒写真と現物などわずかな資料を頼りに復元していったという。まるで遺跡を修復するようなプロセスだ。「これほど大規模なビルの復元は大阪初かもしれません」と鈴木さん。その成功を導いた高い復元技術と粘り強さに、大阪の底力を感じる。

生まれ変わった旧ダイビル本館は今、「生きた建築」として多くの建築ファンを魅了している。また地元企業と協働で、音楽や建築アートを楽しむイベントを開催。芸術文化を活血づける役割を担っている。今も昔も時代の先を走るダイビルは、オフィスビルの枠を超え、大阪が持つ力を再確認させてくれる存在なのだ。



建物は元あった位置より後ろ寄りに建設。空いたスペースには飲食店のテラス席が設けられ、コーロップの雰囲気漂う通りに変身した。

旬を味わう、一期二会のスパイスカレー。

その熱い思いを形にしたのが「選べる混ぜカレー」だ。

これは、日替わりのキーマと野菜カレー、サラッとした「定番カレー」の3種を混ぜて味わうメニューだ。日替わりカレーは旬の野菜や魚が中心。「素材の美味しさを引き立てるためにスパイスをどう使うか、シミュレーションして厨房に入ります。レシピはないためぶつけ本番、二度と同じカレーはつくれません(笑)」と加藤さん。それらをより美味しくするために、和風出汁が隠し味のカレーやタイ風カレーなどの定番カレーを加えるのが旧ヤム邸の流儀だ。

二度とこの味を楽しむことはできない、と思うと一匙の重みを感じるが、その口当たりはサラッと軽く食が進む。一皿ずつ仕上げていくとあって、フワッと口いっぱいに広がるスパイスの香りはフレッシュで、素材の歯ごたえや旨味も存分に感じられる。混ぜ具合によって、一口ごとに味が微妙に異なるのも面白い。そして、食後に訪れる美味しい余韻、「明日はどんなカレーが登場するのだろう」というワクワク感。こんなカレーを味わえば、今後の仕事も頑張れそうだ。



「この店」の二品。

「第1回」旧ヤム邸 中之島洋館

混ぜカレー



近年、大阪でスパイスカレーのブームが起こった。その火付け役だった「旧ヤム邸」が新たなステージに選んだのが、ダイビル本館だ。「憧れのダイビルに店を構えるのなら、今以上のことをしたいと思いました。めざしたのは、カレーの枠にとらわれないカレーです」と加藤理店長は当初の意気込みを語る

旧ヤム邸 中之島洋館

大阪市北区中之島 3-6-32
ダイビル本館 2F
06-6136-6600
11:15~LO14:00、
18:00~LO21:00(売り切れ次第閉店)
土曜・LO20:30 定休日:日曜・祝日



【VOL.1】

大大阪時代への想い。

「大大阪」を英語で表記すれば、「GREAT OSAKA」あるいは「GREATER OSAKA」となる。「偉大なる大阪」という風にもとれるが、そもそもは面積を拡張した大阪市、すなわち「大阪市街地、およびその郊外」といった意味になるだろうか。

大正14年(1925)、大阪市は続く東成郡・西成郡に属する44の町村(鶴橋町、生野村、天王寺村、住吉村、今宮町、中津町、豊里村、伝法町などを合併。第2次の市域拡張を実施した。南は大和川、北は新淀川を越えて兵庫県境までを編入したことで、大阪市の人口は139万人から203万人に膨れあがった。東京市を凌駕し、ニューヨークロンドンパリシカゴに次ぎ、ベルリンなどと世界第5位の位置を争う規模となる。

4月1日、新たな大阪市の発足する。東西南北4区であった行政区域を8区に分け、さらに市域に編入された町村を5区に再編、合計13区からなる東洋のメトロポリス「大大阪」が誕生した。

『大阪毎日新聞』の記事には「輝かしい『大大阪』は愈々きょうから実現」という見出しが踊る。大大阪の建設に尽力した關二大市長は「...思つて見ると全く夢のような話だ。大阪市民は自強自治の民で、これまでに出て来た市の大事業は皆いずれも根強い市民の力に成ったものばかりである。今回の町村編入も全く市民の持つ金の力とその溢れ切った愛市観念の結晶に外ならない...」と述べている。「大大阪」の発足に際しては、多くの市民が誇ら

しげに思い、期待を抱いたようだ。

もつとも当時、大阪はさまざまな都市問題に直面していた。「週刊朝日」は「生れ出でんとする大大阪」と題する小特集を組み、面積の広さや人口の過多が、都市の「誇り」とする根柢ではないと苦言を呈する。世界5位の大都市という和勇壮だが、都市計画による街路網や下水の整備、築港の完成、学制の統一、中央卸売市場の新設、電燈事業の経営など、いまだなすべき多くの事業が残っている。特に酷く混雑していた交通の緩和を促すべく「市内高速交通機関」、すなわち地下鉄などの高速鉄道の整備が「急務中の急務」だと述べる。

この状況に対して、大阪市は順次、対処していった。先の『大阪毎日新聞』の記事で關市長は、「生産の都」としての大大阪を築きたい大大阪市を築き上げようというのが私どもの方針であり理想でもある」と抱負を語っている。その後、昭和初期にかけて御堂筋を拡張、地下鉄を建設すると同時に、中之島には水都の名にふさわしい美しい公園を整備した。大阪城には歴史博物館を兼ねた展望施設である復興天守閣を建設、社会施設や教育機関も拡充、市場などの都市基盤も整えてゆく。都心の水際は

「東洋のベニス」、北浜界限は「東洋のウォール街」、煙突が林立する工場地帯は「東洋のマンチエスター」に例えられた。

また周辺の町村を編入したことも、都市問題の解決に不可欠であった。耕地整理や区画整理を実施、幹線道路や上下水道を建設する。農地や未利用地を新たな工場の用地や住宅地として確保したわけだ。

90年が経過した今日、私たちが「大大阪時代」に想いをはせる際、決して懐古的になつてはいけなくて私は主張したい。当初、「大大阪」とは、すでにあった都市を評価する概念ではなかった。これから創出されるであろう、世界に誇るべき新しい大阪の姿、理想的な未来の都市の姿を、市民が期待をもつて「大大阪」と呼んだわけだ。世界に冠たる活力ある「大大阪」都市を建設しようとした、未来志向の先人たちの想いと、大阪に対する愛市精神にこそ、学ぶべきである。



橋爪紳也 橋爪紳也
大阪府立大学
21世紀科学研究機構 教授
観光産業戦略研究所 所長

BOOK REVIEW

編集部が薦めるこの一冊



日本人も知らなかった日本の国力(ソフトパワー)

著者: 川口盛之助 (発行: デイスクヴァーター・トゥエンティワン)

日本人は「才能の総量」に自信を持って、その潜在力をどう活かすかが課題だ。本書は14の専門分野で、日本の「お国柄の可視化」を試みた、全く新しい日本文化論である。各界で超一流と呼ばれる達人たちの発想や技術を数値で捉えることで、日本の得意分野を一目で納得できる興味深いデータが満載。網羅性

や定量性を持ったデータブックでもあり、また日本人のソフトパワーについての歴史的解説も盛り込まれた教養書と言える。膨大なデータから見えてきた日本人の姿。それは、穏やかながら上品さに満ちているもの。日本を改めて認識することで、クールジャパンと称されるものの正体を知ることができる一冊。



オタクで女の子のモノづくり

著者: 川口盛之助 (発行: 講談社BIZ)

ユニークな製品を、なぜ世界中で日本のメーカーだけが作れたのか? その秘密は日本が世界に誇る「オタク的な文化」「女の子的な文化」にあるというのが若者文化を深く愛する著者の回答。日本のモノづく

りと経済を完全復活させるには上記の文化、パワーを生かした製品開発を進めるしかない、豊富な実例を挙げて明快に指摘。分かりやすく前向きな考えに勇気付けられる一冊。



光のまちをつくる

著者: 橋爪紳也 (発行: 創元社)

大阪では水と光のまちづくりによる新たな都市の魅力創出のため、官民一体で委員会をつくり構想を策定。建築物や橋梁のライトアップ、OSAKA光のルネサンスや御堂筋イルミネーション等のイベント開催で大きな成果を上げてきた。世界的にも注目される

ようになった光の名所づくりの成功の秘訣を、コンセプトから技術的側面まで各分野の専門家が解説。選定した光百景をカラーで紹介されており見応えも抜群の一冊。



大阪府謎解き散歩

著者: 橋爪紳也 (発行: 中経出版)

「天下の台所」と称され、経済・商業の中心として発展した大阪。古代から現代まで、色彩豊かな歴史を歩んできた大阪には、いろいろな「なんで?」がある。「なぜ昔、大阪のことをなにわと呼んだのか?」「お好み焼きのルーツを辿ると千利休?」など、大阪の歴史、文化、地理、産業からB級グルメまで地元の人も思わず驚く大阪府のあれこれを紹介。大阪の不思議100編も

まとめられておりユニーク。「世界で評価される大阪出身者たち」など、歴史的な過去の出来事だけでなく最新の情報も網羅し、一定の世代だけでなく幅広い年齢層に受け入れられる内容となっている。ちょっとした雑学でなく「大阪のことを深く知りたい」という方には特にオススメしたい一冊。



新装版大大阪モダン建築 輝きの原点。大阪モダンストリートを歩く

著者: 高岡伸一・三木学 監修: 橋爪紳也 (発行: 青幻舎)

「大大阪」への礎を築いた近代建築をめぐる決定版! 代表的建築物をはじめ、往時の香りをまとい、ゆるやかな時が流れるカフェやレストラン、心を贅沢にする古き良き時代の空間の紹介など、建築の書として

のみならず、大阪市内を見て歩く際の格好のガイドブックとして、今なお時代の空気が息づく洋館など一味違うモダンな大阪の姿を教えてくれる一冊。



「小倉屋」の昆布はさっぱり辛口。やわらかく昆布の旨みが凝縮されています。釜の大きさに限界があるため大量生産はできませんが、かたくなに昔ながらの製法を守り、直火で6時間もの時間をかけて煮ています。当店の代表的な商品でもある山椒のさわやかな香りが広がる「山椒昆布」は、大正から昭和にかけての大阪を舞台とする小説を残した織田作之助の名作「夫婦善哉」の説に綴られています。

昆布のおいしさを海外にも伝えたい。

「上等の昆布に山椒を入れて煮詰める」と、戎橋をぐら屋で売っている山椒昆布と同じ位のうまさになる」という風に評されているのです。

「上等の昆布に山椒を入れて煮詰める」と、戎橋をぐら屋で売っている山椒昆布と同じ位のうまさになる」という風に評されているのです。

「小倉屋」の昆布はさっぱり辛口。やわらかく昆布の旨みが凝縮されています。釜の大きさに限界があるため大量生産はできませんが、かたくなに昔ながらの製法を守り、直火で6時間もの時間をかけて煮ています。当店の代表的な商品でもある山椒のさわやかな香りが広がる「山椒昆布」は、大正から昭和にかけての大阪を舞台とする小説を残した織田作之助の名作「夫婦善哉」の説に綴られています。



小倉屋株式会社
大阪市中央区難波1-6-12
<http://www.ogurakonbu.co.jp/>

するために、店には中国語と英語が話せるスタッフが常駐しています。「夫婦善哉」に描かれている時代には予想もつかなかったことです。最近では販路を広げ、イギリス、シンガポール、マレーシア、ベトナムなどで販売を開始。国によってルールが異なるので、筋縄ではいきませんが、動かないとなにも始まりませんからね。八代目店主になって今年で8年。私の挑戦はまだじまっただばかりです。(談)



探訪(●)浪速の名匠

【第二回】をぐら屋大阪戎橋筋

お話し 八代目店主 池上時治郎社長
(大阪青年会議所OB 大阪青年会議所OB)

関西には名匠によってつくられた、素晴らしい銘品が数多くあります。

「探訪・浪速の名匠」では後世にまで語り継ぎたい、芸術品と呼ぶにふさわしい銘品をご紹介します。

第一回目は、浪速の昆布文化を築いたをぐら屋大阪戎橋筋の八代目店主、池上時治郎社長にお話をお聞きしました。

昔ながらの製法をかたくなに。

創業者が昆布商の暖簾を揚げたのが嘉永元年(1848年)。その後、四代目店主が戎橋筋に本店を出店しました。現在に至るまで、屋号の「小倉屋」とブランド名の「をぐら昆布」を名乗ることができ、暖簾分け制度をおこない、今では約30社を数えるにいたりしました。

OSAKA

ええとこ撮り

フォトコンテスト



ケータイ
撮影OK!

第1回応募テーマ

「大阪人のええとこ」

大阪市内で撮影した「大阪人のええとこ」を表現した写真を募集します!

募集期間: 2017年1月11日~2月28日

■応募詳細はHPにて

結果発表: 本誌次号(3月発行)誌上/HP上

大阪青年会議所

検索

【第1回大賞賞品】
なにわ淀川花火大会観覧席
ペアでご招待!

編集後記

リニューアルしたSenciaはいかがだったでしょうか?

今号では、「復権!大阪の底力」を編集のキーワードにして、巻頭の市長理事対談、「ザ・元気人インタビュー」、特集の「大大阪時代を歩く」、「探訪・浪速の名匠」など、

大阪が誇りとし、未来への新たな可能性を感じさせるコンテンツが満載です。

次号でも、元気な大阪のあるべき姿を求めて、過去から現在、そして未来について面白い企画を展開予定です。どうぞお楽しみに!



Junior Chamber International Osaka
一般社団法人 大阪青年会議所

www.osaka-jc.or.jp/

〒552-0007 大阪市港区弁天1-2-30 オーク4番街401号室

TEL 06-6575-5161 FAX 06-6575-5163

スマートフォン版



大阪ファンファンクラブとは?

様々な活動を通して、一人でも多くの市民の方が年齢や職種、生活の垣根を超えて「まちづくりに参加する」場所をつくりたい!そんな大阪青年会議所メンバーの想いからOsaka Fun Fan Clubは誕生しました。

ご協力いただける サポーターの方々大募集!

「私たちと一緒に大阪のまちをより良く変えていきませんか?」

①大阪のFanになりませんか?

大阪ファンファンクラブのHPから会員登録をお願いします。

様々な角度から、大阪の魅力あふれる情報を提供していきます。

②大阪のために活動しませんか?

一緒に活動して頂けるメンバーを募集しています。事業ごとに随時募集中です。

③活動資金のご支援をお願いできませんか?

私どもの活動にご賛同頂ける方に寄付金のご支援をお願いしております。詳しくはHP上でご確認下さい。

サポーター大募集!!

あなたの力で大阪を盛り上げてみませんか?

【主な事業内容と募集サポーター】

■わんぱく相撲大阪大会



■なにわ淀川花火大会



各運営ボランティア募集中

■入会はこちらから

大阪ファンファンクラブHP

<http://www.osaka-jc.or.jp/supporters/>

サポーター法人紹介

on the desk
INTERNET & PUBLISHING

株式会社 オン・ザ・デスク インターナショナル

<http://www.onthedesk.jp/>

〒541-0053 大阪市中央区本町1-5-7 西村ビル7F

TEL: 06-4964-0525

FAX: 06-4964-0526

■広報クリエイティブ特化の専門集団

企業、官公庁、教育機関等の広報誌、PR誌、社内報、CSRレポート並びにコーポレートサイトなどの「広報クリエイティブ」に特化、高いウオリティと専門性で評価と信頼を獲得しています。

■今年度「Sencia」の制作も担当中

大阪青年会議所では、今回リニューアルした広報誌「Sencia(センシア)」の企画制作を担当頂いております。

小鯛雀 ずし第

株式会社 小鯛雀 ずし第

〒550-0004

大阪府大阪市西区靱本町2丁目3-7

TEL: 06-6448-6435

FAX: 06-6448-6438

1653年に創業した私たちずし第は、美味しさを追求し、材料運びに日々心血を注いでおります。小鯛は淡路島南端から沼島付近を中心に瀬戸内産のもの、お米は近江の湖南米を独自に配合し、昆布は北海道産真昆布、酢は京都・村山千鳥酢。素材を最大限に生かすため、こだわり続け、吟味を重ねます。そして先代の人々から現代まで脈々と受け継がれてきた伝統の技を守り続けることを天職とし、精進を重ね私たちは今日も小鯛雀の味を皆様にお届けしております。

勝尾寺
KATSUO-JI

<http://www.katsuo-ji-temple.or.jp>

〒562-8508

大阪府箕面市勝尾寺

TEL: 072-721-7010

FAX: 072-722-6665

「勝運の寺」、「勝ちダルマの寺」として1300年の勝運の歴史をたどる名刹。境内には、願い事が叶った勝ちダルマが所狭しと奉納されている。縁起の良さから初詣はもろろん、約8万坪の境内を彩る紅葉や桜の名所としても有名で、一年中全国からの参拝者は後を絶たない。

